いうことでした。そして，薬剤師が誰からどのようにして必要な情報を得られるか一緒に考えたところ，ケアマネジャーなら必要な情報を持ってるし，ケアマネジャーだったら連携しやすいよねということになり，「だったら逆バージョンを作って，情報をもらえたらいいよね。」というのがスタートですね。

武田

それで相互交通が始まったんですよね。

小松

それで，完成したものは，薬剤師だけではなく，医師・歯科医師・看護師等も使える逆バージョンの様式になったんです。逆バージョンを検討した際にも様々な意見が出ましたよね。「連携連絡票を作り直して，一つの書式で双方向で使用できるものにした方が良い」とか，「地域に根付き始めた書式は変えるべきではなく，一旦別様式を作成して必要に応じて統合すべきだ」とか，「チェック欄を具体的にして，できるたけ記載しなくて済むようにしてほしい」とか，「医療側の個人情報の使用同意や取り扱いについて大丈夫なのか？」とか…。なんだかんだとあって，運用を開始するまでに２年４ヶ月かかったんですよね。大変でした（笑）。

森田

入院時の情報提供，退院時の情報提供，入院時のカンファレンスや，退院時のカンファレンスが必要とされていますが，時間がとれない。そのなかで，こういうものがあったらいいねというところから始まりました。科によっても違うし，それを統一するのはなかなか大変でした。ケアマネ協会と気仙沼市立病院というのではなくて，保健所（保健福祉事務所）さんが中に入って，中身に踏み込んで指導をする。だめならだめでどうしたらよいのか，解決策を教わったと思います。施設入所の共通健康診断書も，この流れの中で作成していただきました。施設入所に関しては，施設によって求める診断書がばらばらだったわけです。赤沈調べてどうするのということになり，項目から外しました。協議して，非常にコンパクトにしました。検査が多くなれば当然料金も高くなります。入所予定の家族は，一箇所だけではなく，複数の施設に申し込んだりするため，それだけで何万円になりました。そのような負担も軽減しようということで，施設とも連携をとりました。これも連携連絡票から始まった流れの中で。本当に素晴らしいなと思います。

築場

病院だけではなく，施設入所に関することについても広がっていったというお話ですね。

「連携連絡票」の今後の展望

「障害分野」や圏域を越えた拡がりに期待

築場

医療と介護の連携連絡票の今後の展望についてお伺いします。

小松

実は，その辺のことについてはあまり考えていなくて，今までと同様に，その時々の地域事情やニーズに合わせて考えていけばいいのかなぁーと思っています。今現在考えているのは，障害分野の方から連携連絡票を使えないかとのお話をいただきましたので，介護だけではなく，障害の分野でも活用できないか協議・検討していければと考えています。

また，圏域や県境を跨いで病院を受診している方がおりますので，もう少し活用できるエリアが広がれば良いのですが，これについては様々な障壁があるでしょうから，これに触れるのは，今のところはやめておきます（笑）。

理想としては，最終的に連携連絡票などのツールの使用は最小限となって，普通にフランクに医療と介護が連携できるようになれば良いなぁ～などと思っています。

時々村岡先生が，用事があって突然フラ～っと事務所に来ることがあるんですが，先日は「今日から訪問する家の近くまで行ったんだけどよくわかんなかったから地図見せて」って来たんですよ。そんな感じの関係性が良いなぁ～って思います（笑）。

最初のうちは職員も，「村岡先生がいらっしゃいました！」と構えていたのですが，今は「村岡先生来ました！」って扱われてまして。そのくらいのフランクな感じがいいのかなと思っています。

髙橋

連携連絡票ができてから８年が経っているので，連携連絡票を知らない人とか，使っていない人とか，